

# ラオスから持続可能な地球社会について考えよう

## はじめに

「日本がODA（政府開発援助）を行う意義は何か」という問いに、どのような視点から考え、答えを見いだすことができるか。JICA職員の方の話を伺った際に、開発援助に対して否定的な意見が少なからずあることを知り、この問いを中学生と一緒に考えたいと思い、教材化を試みた。

確かに、現在の日本は少子高齢化や地方の過疎化の進行、経済の低迷や格差の広がりといった国内における課題も多く、他国の援助を行う余裕はないという見方もある。その一方で、世界には地域紛争や貧困問題、気候変動といった地球規模の課題も多く、「人間の安全保障」の達成に向けて先進国であり、唯一の被爆国でもある日本が国際的に求められる役割は大きい。

日本のODAについて、生徒は小学校の学習で大まかな概要について知っていると考えられるが、ラオスへの支援の実態や開発援助の経緯、それらに関わる国際機関との関係性については知らないことが多いと考えられる。また、開発援助を単にお金を渡すことだと捉えたり、日本の政府や企業にとって経済の安定・成長や信頼関係の構築といった国益につながることまでは知らなかったりする生徒も多いと予想される。

本教材では、単元の前半（第1時～5時前半）で、ラオス国内の状況について興味をもった疑問点を生徒個人が選択し、調べてレポートにまとめ、発表する活動を行う。自由に学習内容を選択することでラオス国内の課題について関心を高め、個別最適な学びを促す。単元の後半（第5時後半～第9時）では、JICAラオス事務所の職員の方へのインタビューを通して、ラオスと日本のODAを通じた二国間のつながりをはじめ、日本のODAの経緯や国際機関との関係、気候変動といった地球規模の課題など、よりグローバルな視野でODAについて考察していく。このように、ラオスから日本、世界へと視野を広げることや、現在に至るまでの歴史的な背景、それぞれの国の立場や国際機関から見る利益など、多様な視点からODAの意義、在り方について判断していく生徒を育てていきたい。

## この教材の使い方

この教材は、中学校3年生の社会科公民的分野での学習を想定している。ラオスという国の存在を知らない生徒が大半なため、ラオスについて日本と比較しながら学習に入る方が良いと考える。

また、第5時のJICA職員へのインタビューは、クラス数などの状況によっては外務省が制作しているODAの動画を見せることで省略することもできる。しかし、現地の生の声を聴くことで、より見識が広がる可能性が高いため、JICAオンライン出前講座の活用を強く勧めたい。

## 全体のねらい

ラオスに関する疑問点について、自ら計画を立て、進んで調べたりまとめたりすることを通して、日本の国際貢献の在り方について、多様な観点から考え、自分なりの解釈をもつことができる。

## アクティビティ1 「ラオスの不思議探究！」

### ●概要

ラオスに行って実際に感じた疑問について、6つの写真とカードをGoogleスライドで示し、班で協力しながら写真の内容の説明に合うカードの番号を選んでいく。登場する写真の内容は、ODA（政府開発援助）と関連しており、単元を通して探究していく学習内容と関連している。答えを確認し、写真の内容について補足説明をした後、自分の興味のある疑問点について3つを選び、インターネットなどの情報を基に調べてレポートを作成し、発表する。

### ●ねらい

ラオスに関する疑問点について自分で学習計画を立て、レポートの作成や発表を行うことを通して、ラオス国内の現状や国際協力の必要性について関心を高めることができる。

### ●主な対象

中学3年生（内容を工夫することで、小学校6年生の社会科でも可能）

### ●用意するもの

- ・パワーポイント①（P109～110）
- ・Googleスライド（スライド内に班の数だけ同じものを用意する）（P111）
- ・ワークシート（①学習の流れ、②学習計画表）（P113）：全員分
- ・Googleドキュメント（学習レポートの作成用）

### ●所要時間

- ・4～5時間（ガイダンス等を含む）

### ●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. 課題との出会い・学習計画の作成 (1) ラオスの位置や人口といった基本的な情報を知る。（5分）	ラオスという国そのものを知らない生徒が多いと考えられるため、パワーポイント①を用いながら視覚的に説明をする。
(2) 「ラオスの不思議クイズ」を班で協力して行う。（10分）	Googleスライドを使い、班で協力してクイズを行うことで、ラオスの現状について全員が関心を高めるきっかけをつくる。

(3) 個人レポートの作成についてガイダンスを聞く。(15分)

※ガイダンスの主な内容

①個人レポート作成・発表のルール・計画

②「ラオスの不思議クイズ」の写真の説明  
→ラオスに関する疑問点を共有する

ワークシート①(学習の流れ)を配付し、単元全体の学習の見通しがもてるようにする。

ラオスに関する疑問点の中から3つを選び、Googleドキュメントを用いて個人レポートを作成する。配付するレポートのデータには、きつかけとなる問いのみ示す。作成のイメージがもてるように見本を1つクラスルームに提示しておく。レポート課題をつくる上での注意点(引用の仕方など)や提出期限についても説明する。

(4) 学習計画を作成する。(10分)

どのレポート課題に取り組むのかを記入させることで、活動の見通しをもたせる。

早く計画ができた生徒には、レポートの作成を始めてよいことを伝える。

## 2. 学習レポートの作成(約3時間)

学習計画に沿って、課題について調べ、Googleドキュメントにまとめさせる。各授業の終わりに、調べて印象に残ったことや疑問に感じたことをスプレッドシートに入力していくことで、単元終了後のレポート課題やアンケートに答える際に学びをふり返ることができるようにする。

## 3. 学習レポートの発表・インタビュー

(1) JICAラオス事務所職員(講師)の自己紹介(3分)

前日までに、オンラインの接続やインタビューの質問事項、授業や単元全体の大まかな流れについて打ち合わせをしておく。

(2) レポート内容の発表(12分)

前日までに学習レポートA~Fの各発表者1名を決めておく。発表を聴く人は、自分が調べていない残りの学習課題の中から聴講する発表を選ぶ。発表者・聴講者はそれぞれの場所に移動し、4~6人程度で分かれる。発表者の学習レポートをクラスルームに貼り付けておき、聴講者はレポートを見ながら発表を聴く。発表時間は3分。発表後、聴講者は質問をする。その後、講師に発表について講評をしてもらう。

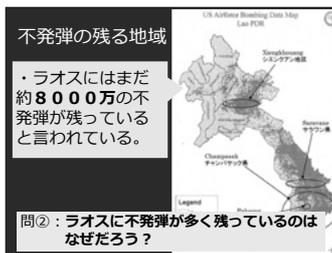
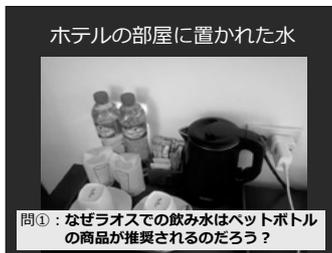
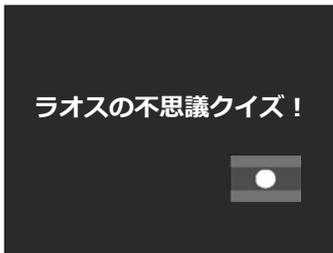
(3) 講師へのインタビュー(10分)

※実際のやり取りの内容については別紙参照

学習レポートについて調べる中で、分からなかったことや疑問に感じたことについて、3名程度、代表者を決めておき質問をする。

## パワーポイント①（見本）

※データはウェブ上からダウンロードしてください。



### ナムグムダム

ラオスでは70%  
以上が水力発電



### 停電でエアコンが止まった ラオス料理のお店



問⑤：ラオスで電力が不足しているのはなぜ？

### 研修を受ける現職の先生



### ラオスの教員養成校



### ラオスの教員養成の課題

高卒で教員養成校で学ぶ学生  
→5年前まで1000人以上いたが、現在は95人

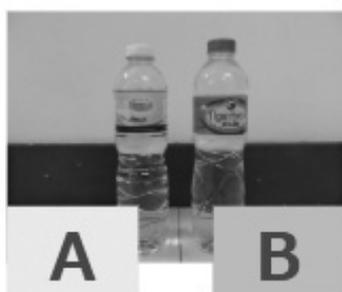


問⑥：ラオスで教員をめざす学生が減っているのはなぜだろう？

「ラオスの不思議クイズ」で使用したGoogleスライド

※6枚の写真のデータはウェブ上からダウンロードしてください。

1班



カードA~Fの説明に合う写真を選ぼう

A ラオスへ渡航する際、飲料水や手洗いで水道水を使わないよう指示を受けた

B 約8000万個の不発弾が残っており、ケガや死亡事故が多く発生している

C 中山間部にあるロンラオ村のトイレでは、水を桶ですくっておしりを拭く

D ラオスではヘルメットをせずに子供を乗せたバイクが多く走っている

E ラオスでは水力発電がさかんだが、時々停電が発生する

F ラオスでは国立大学は大幅な定員割れをし、教員が不足している

※答えは、左上の写真から右へ「E、D、C」。左下の写真から右へ「A、F、B」。

## ガイダンスの内容・手順

### I 個人レポートの課題について

※ワークシート①（学習の流れ）を配付後

「今日から10時間で単元の学習をしていきます。次の時間からは、3時間で個人のレポートを作成します。これからクイズに出てきた6つのカードの内容について説明するので、その中から3つを選んで、課題を調べて下さい。なお、5時間目の授業では、JICAラオス事務所の方にオンラインで参加して頂く予定です。調べて分からなかったことは、この時間に質問してみてください。」

### II 課題（カードの内容）の説明

#### ■学習レポートA

「出発前に、ラオスでは水道水は飲まずにペットボトルの水を飲むように指導を受けました。実際にホテルでは、歯磨きやコンタクトレンズを付けるために手洗いする時もペットボトルの水を使用しました。日本では水道水でできるのに、どうしてペットボトルの水が推奨されるのでしょうか？」

#### ■学習レポートB

「爆発しなかった爆弾のことを不発弾と言います。ラオスには、クラスター爆弾の中から広がった小さな爆弾が世界一残っているそうです。不発弾を除去する様子を、動画で見てください。このような危険な爆弾が、多く残っているのはなぜなのでしょう？」

#### ■学習レポートC

「写真の公衆トイレの左側には水の入った容器があり、桶で水をすくっておしりを流します。私が行ったカム族のロンラオ村は、山間部にあつて都市部とは違い、身体を洗う時も屋外の溜まった水を桶ですくって流している人がいました。牛や鶏、犬など動物を多く飼っており、自然豊かな環境ですが、子供たちはスマホの動画サイトを見ていて、少し驚きました。国連の調査によると、ラオスでは一日1.25ドル以下で暮らす人の割合が、低地19%、高地33%だそうです。どうして、低地と高地で、生活水準がこんなに違うのでしょうか？」

#### ■学習レポートD

「首都ビエンチャンを車で移動していて一番驚いたのが、ノーヘルでバイクを運転している人が多いことです。バイクの後ろにノーヘルの子供を乗せた人や、3人乗りしている人も見かけました。日本ではそのような光景は見かけないですが、なぜラオスではノーヘルの人が多いのでしょうか？」

#### ■学習レポートE

「首都ビエンチャンの電線を見ると、乱雑になっています。ラオスは、メコン川があることから電力量の多くを水力発電に頼っていて、隣国のタイへ輸出もしています。しかし、時々停電が起こるそうです。実際にラオス料理のお店で昼食中、急にエアコンの電源が落ち、とても暑い中で辛い料理を食べました。どうして輸出するぐらい発電しているのに、停電してしまうのでしょうか？」

#### ■学習レポートF

「写真は、ラオスの現職の先生たちが夏休みに研修を受けている様子です。教員養成校では、高校を卒業した学生たちが普段は学んでいるのですが、5年前までは1000人近くいた学生が、現在は95人しかいないそうです。日本でも教員不足が問題になっていることを聞いたことがあるかもしれませんが、どうしてラオスでは教員になりたい学生が減ってしまったのでしょうか？」

「ラオスから持続可能な地球社会について考えよう」

- 目標 ①ラオスに関する疑問について、自ら計画を立て、進んで調べたりまとめたりすることができる。  
 ②開発途上国への日本の国際貢献の在り方について、多様な観点から考え、自分なりの解釈をもつ。

時間	主な学習内容・活動
1	ラオスで感じた日本と異なる疑問について知り、ガイダンスを聞いて単元前半の学習計画を立てる。
第2時～4時は、自分の計画に沿って、ラオスに関する疑問を調べ、レポートを作成する。	
<p>【ラオスに関する疑問の例】</p> <p>A. ラオスで飲み水はペットボトルの商品を推奨されるのはなぜ？ →<u>学習レポートAへ</u>                  【発展課題】上水道の整備が遅れている要因は何か？</p> <p>B. ラオスに不発弾が多く残っているのはなぜだろう？ →<u>学習レポートBへ</u>                  【発展課題】ラオスのSDGs18番目のゴール（不発弾のない暮らし）を達成するために大切なことは何か？</p> <p>C. ラオスの低地と高地で生活水準が異なるのはなぜだろう？ →<u>学習レポートCへ</u>                  【発展課題】観光地化することはロンラオ村の人々を幸せにするか？</p> <p>D. ラオスで多くの人がヘルメットを着けず複数人でバイクに乗っているのはなぜ？ →<u>学習レポートDへ</u>                  【発展課題】国の法律はどのようにあるべきか？</p> <p>E. ラオスで電力が不足しているのはなぜだろう？ →<u>学習レポートEへ</u>                  【発展課題】ラオスの電力需要をどのように補うべきか？</p> <p>F. ラオスで教員になりたい学生が減っているのはなぜだろう？ →<u>学習レポートFへ</u>                  【発展課題】ラオスの教育の質を上げるために、どのようなことができるか？</p> <p>G. その他のラオスについて疑問に感じたこと →<u>学習レポートGへ</u></p> <p>★チェック1 学習レポートA～G（自分の選択したレポート3つ）を先生に提出する。                  ★チェック2 各レポートに対して、ふり返りをする（スプレッドシートに回答）。                  ----- ここまでを第4時までで終わらせる -----</p>	
5	学習レポートの発表・JICA ラオス事務所の職員の方に、調べて疑問に感じたことを質問する。
6	日本とラオスの関係について知り、日本の国際貢献のあり方について考察をします。
7	
8	
9	
10	学習のまとめをする。 ★チェック3 単元のふり返りレポート・アンケートの提出。

学習レポートD

3年 組 番 名 前

**Q1. 多くのラオス人がヘルメットを着けずに複数人でバイクに乗っているのはなぜ？**

ラオスはバイク文化だそうだ。バイク文化での問題は無免許運転が多いことだ。また、車ではなくバイクでの移動のため多くの人をバイクの荷代に乗せる。バイクが車のような扱いになっているためいちいちヘルメットをつけないという。



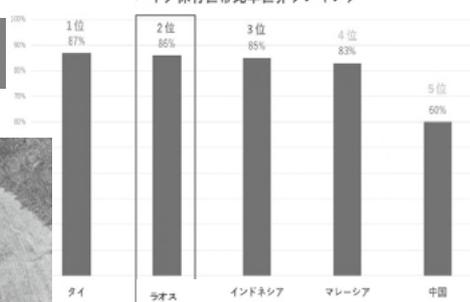
やはりヘルメットをつけないがゆえに死亡事故が多いそうだ。ちなみにヘルメットを付けていない状態で事故をしてしまうと死亡する確率が20倍になるそうだ。ヘルメットはとても大切だということを改めて実感する。

**なぜラオスはバイク文化なのだろうか？**

ラオスは道路がきれいに整備されてあるところが少なく、車でも通れない道が多くあるのだという。そのため、小回りの効くバイクがとても普及しているそうだ。ちなみにラオスに道の8割が舗装されていない道なのだそう。



バイク保有世帯比率世界ランキング



**Q2. 国の法律はどのようにあるべきだろう？**

ちなみにラオスでもヘルメットを付けていない状態でのバイクの運転も日本と同じように交通違反である。ちなみに反則金はラオスが5万キープ(372円)日本では、乗用車ヘルメット着用義務違反で免許剥奪などの罰則があるそう。ラオスでは日本ほど盛んに交通指導取締りを行っていないため被っていない人が多いのだという。日本では、パトカーや白バイなどの交通機動隊によって取り締まりが行われている。



ラオスでもノーヘルを取り締まる法律があるから取締回数を増やせばいいと思う。また、罰則がかかるすぎるので反則金を高くすることや日本のように違反点数を加点するようにしたほうが良いと思う。

まとめ・ふり返り

ラオスにはなぜヘルメットを付けないでバイクに乗っている人が多いのかしっかりと理解することができた。これからも死亡事故を一件でも減らせるように法律を変えた方が良い。

インターネットを使いながら、様々なサイトから情報を得て、レポートを作成している生徒が多く見られた。生徒によっては、調べたことを見やすくまとめることや、新たな疑問点を調べ、追加してまとめている生徒もいた。その一方で、課題に対する回答が一面的なものや、意見に根拠がない生徒の予想レベルのものも見られた。また、参考・引用文献の示し方や、効果的な検索の仕方などを指導していく必要があることも分かった。

## 現地職員との交流の意義

単元の5校時にJICAラオス事務所の職員2名にオンラインで授業に参加して頂いた。その際、生徒が発表したレポートの内容や、質問に対するコメントで貴重な学びを得ることができた。

### (1) 現地で携わる人から見た情報の獲得

下に示すのは、学習レポートCについて調べ、発展課題であるロンラオ村を観光地することがオーバーツーリズムにつながると考えた生徒への講評の一部である。

すばらしい発表、ありがとうございます。(中略) ロンラオ村のオーバーツーリズムについて、確かにそういう問題もあります。ただ、私が伝えたいのは、「観光客が来るからその文化が残る」という面もあることです。日本でも着物を着る習慣が減ってきていると思うのですが、京都や鎌倉で着物を着るサービスが出てきたら、その文化が復活できます。それと一緒に、カム族の人たちも、普段からカム族の服装を着ているわけではないし、着なくなってきていますが、観光客が来てくれて見せるために着ることで、文化が残っていく面もあると聞いています。光と影の両面があるのかもしれませんが、そのバランスを上手くとっていきたいと考えています。

発表をした生徒が、「観光地化することが伝統的な文化の保存につながる」という新たな情報を知ることで、思考が揺さぶられていることが授業後の振り返りの記述に見ることができた。このような現地で関わる人々の思いや考え方に触れることで得られる情報は、インターネットでは得ることが難しく、とても貴重だと感じた。

### (2) 抽象的な言葉の示す実態の理解や概念形成

次に示すのは、代表生徒3名の質問に答えて頂いた場面の一部である。一人の生徒の「どうしてラオスでは、貧困の状態が続いているのですか。」という質問に対し、下のような回答を頂いた。

講師A：ラオスには課題が多いです。道路の整備ができておらず、例えば学校に行くことや、病院へ行けない人もいます。また、国内産業の生産があまりなく、主にラオスが輸出しているのは、電気やビアラオ、小麦など農業関係のものはあります。しかし、日本の車のような工業製品を輸出できるものは少なく、産業で多くの利益を得ることができないことが貧困に関係あると思います。

講師B：ラオスに来る前はものすごく貧しい国だと思っていました。しかし、貧困といってもみんなが貧しい訳ではなくて、貧富の格差がとても大きいです。私がいる首都ビエンチャンに来てもらったらビックリすると思うのですが、ランドクルーザーやBMW、ベンツなどの良い車がたくさん走っています。その一方で、山岳部に行くとコーラを買うお金もない人がたくさんいるので、貧困や貧富の格差という実態を途上国へ行って見てもらいたいです。

講師Aからは、インフラの整備が不十分なことや、それに伴う生活の不便さ、またその要因についての説明。講師Bからは、貧富の格差の実態についての説明があった。貧困という言葉に対し、国のGDPのような数値だけでは分からない、現地の実態について知ることによって、「貧困」という言葉に対する概念形成が深まったのではないかとと思われる。

## アクティビティ2 「日本のODA（政府開発援助）の在り方を考えよう！」

### ●概要

アクティビティ2は、アクティビティ1でラオス国内の状況を学習した後に、ODAを通じた日本とラオスの関係や、地域紛争や地球温暖化といった地球規模の課題との関連性について考察をする。ODAのこれまでの経緯や国際機関が関わる理由などに関連づけてODAについて知ることで、より多面的・多角的にODAの意義について、自分の意見がもてるようになることを意図している。

### ●ねらい

日本がODAを始めた背景や国際機関がODAに関わる理由について考察することを通して、日本の開発援助の在り方について、多様な観点から考え、自分の意見をもつことができる。

### ●主な対象

中学校3年生

### ●用意するもの

- ・動画①「ODA 世界を結び 未来を紡ぐ」（外務省作成）（「参考文献・引用資料」参照）
- ・ラオスODAプロジェクトマップ① ラオス全体（P120）：全員分
- ・ラオスODAプロジェクトマップ② 首都ビエンチャン周辺（P121）：全員分
- ・資料①「日本の開発協力の意義」（外務省HP）（「参考文献・引用資料」参照）：全員分
- ・動画②「OECD：より良い暮らしのためのより良い政策を共につくる」（OECD作成）
- ・パワーポイント②～⑤（P122～125）

### ●所要時間

4～5時間

### ●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）									
<p>1. 学習課題との出会い 問「学習レポートA～Fを調べる中で、何か共通点に気づきましたか？」</p> <p>(1) ラオスODAプロジェクトマップ①、②を生徒に配付し、気づきや疑問点を挙げる。(15分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>【表出されたラオスに関する疑問点の例】</p><ul style="list-style-type: none"><li>・なぜ北部に空港が多いのか。</li><li>・なぜラオスの中・南部への支援が多いのか。</li></ul><p>【表出された日本に関する疑問点の例】</p><ul style="list-style-type: none"><li>・なぜこんなに無償で支援を行うのか。</li><li>・なぜ技術協力に関する援助が多いのか。</li></ul></div>	<p>JICAラオス事務所の方に、ODAの概略について説明をしてもらおう。講師不在の場合は、動画①「ODA 世界を結び 未来を紡ぐ」を見るのもよい。</p> <p>個人で疑問点を考えた後、グループで情報を共有する。グループ内で疑問点を3つ選び、短冊型のホワイトボードに記入し、黒板の表（下）に貼る。</p> <table border="1" style="width: 100%;"><thead><tr><th></th><th>ラオスに関する内容</th><th>日本に関する内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>過去</td><td></td><td></td></tr><tr><td>現在</td><td></td><td></td></tr></tbody></table>		ラオスに関する内容	日本に関する内容	過去			現在		
	ラオスに関する内容	日本に関する内容								
過去										
現在										

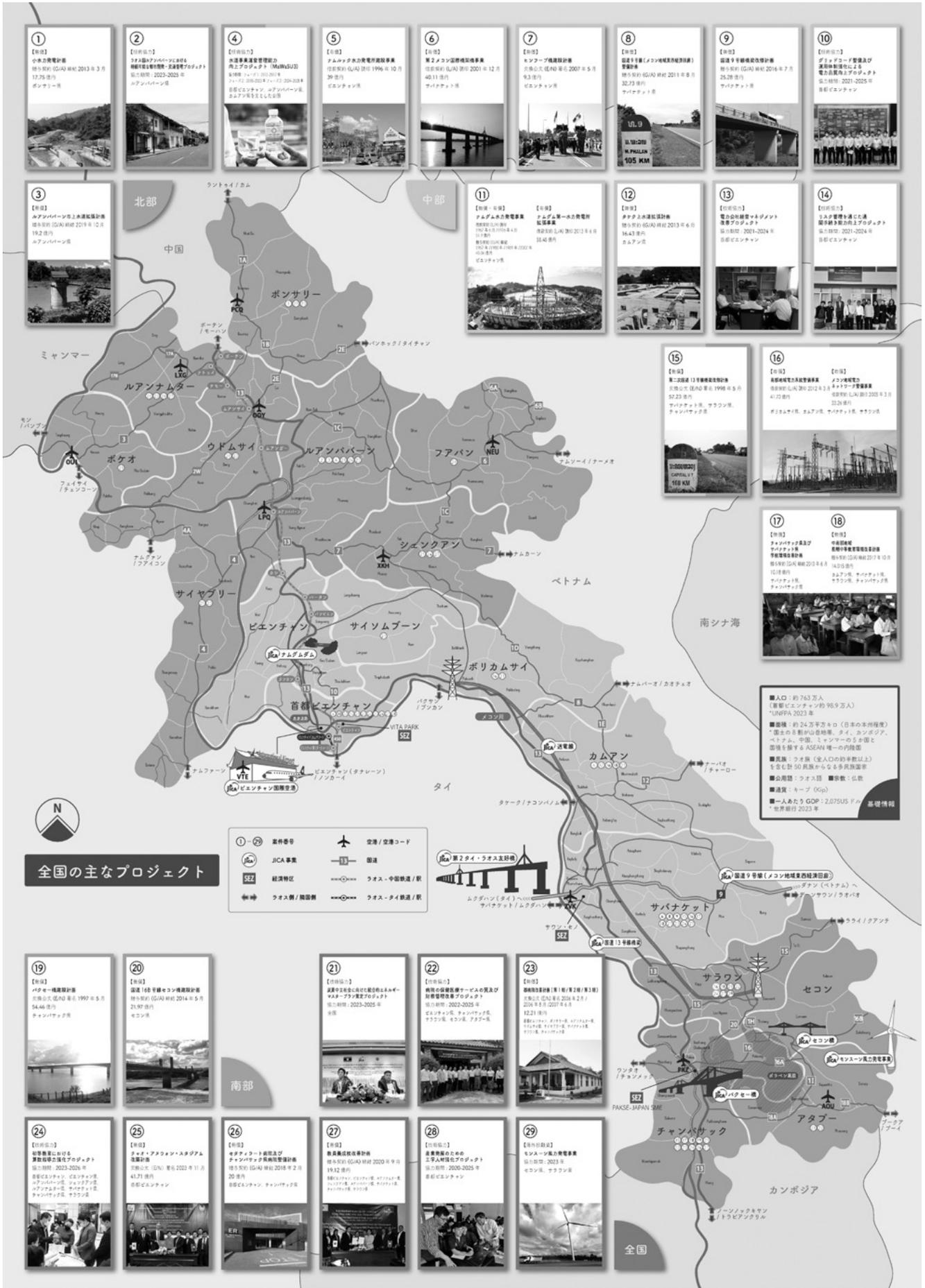
<p>(2) 表出された疑問点の中から、JICAラオス事務所の方に質問をする (10分)</p>	<p>授業の残り時間を見ながら、質問をする。最後に、JICAラオス事務所の方から、授業全体の様子に関する講評や中学生へのメッセージをもらう。</p>
<p>2. 日本のODAの意義に関する考察</p> <p>(1) ODAの概要についての確認 (5分)</p> <p>(2) ODA予算の増減に関する討論 (20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本のODAの推移や年間予算の確認</li> </ul> <p>問：日本はこれからODA予算を増やすべきか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※討論活動で出た意見に対する問い返しの例</p> <p>①どの程度の金額を増減するのか。</p> <p>②平成不況期にも関わらず日本政府がODAを増やしていたのはなぜか。</p> </div> <p>(3) 日本がODAを行う意義についての考察 (20分)</p> <p>問：少子高齢化や過疎化など、国内の問題があるのに、日本政府がODAを行う意義は何だろうか？ (個人→グループで話し合い→発表)</p> <p>(4) ふり返り (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習について、疑問点や気づきをスプレッドシートに入力する。</li> </ul>	<p>パワーポイント② (P122) 参照</p> <p>動画①を視聴し、前時に学習したODAの概要について、視覚的に理解をさせる。</p> <p>「増やす」「現状維持」「減らす」の中から1つを選び、選んだ根拠をノートに書いた後、ネームプレートを黒板の自分の意見の場所に貼る。討論が活発になるよう、選んだ理由の根拠を明らかにしながら発表させる。</p> <p>意見がある程度出た段階で、外務省が出している資料①を配付し、日本政府のODAについての見解について感想を言い合う。</p>
<p>3. 日本のODAの経緯に関する考察</p> <p>(1) 日本のODA開始の時期の確認 (5分)</p> <p>問：「10月6日は何の日？」→国際協力の日</p> <p>(2)日本のODA開始の背景 (20分)</p> <p>問：「戦後10年で日本政府がODAを始めたのはなぜだろう？」(個→グループで共有→発表)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※発表で出た意見に対する問い返しの例</p> <p>①：当時の政府は積極的にODAを行ったのか。</p> <p>②：当時、アジア地域への開発援助が多かったのはなぜだろう。</p> </div>	<p>パワーポイント③ (P123) 参照</p> <p>1954年10月6日のコロンボ・プランへの加盟を経て、翌年から日本のODAが始まったことを確認する</p> <p>1954年の時期は、日本の一人当たりGDPは20位前後で、アメリカ・イギリスに比べ、経済規模が高くないことを確認し、問いを出す。生徒の意見に対して、左のような問い返しをしながら、アジア諸国への戦後の損害賠償や、貿易の促進といった面があったことを確認していく。</p>

<p>(3) ODAの地域別割合の推移に関する考察 (20分) 問：ODAの地域別割合で、中東やアフリカ諸国への援助が増えているのはなぜだろう？</p> <p>(4) ふり返り (5分) ・本時の学習について、疑問点や気づきをスプレッドシートに入力する。</p>	<p>教科書の資料で、ODAの地域別割合の変化を確認しながら問いを出す。アフリカや中東地域の開発向上や、政治的不安定さ、紛争の多発といった背景について確認し、国際的に「人間の安全保障」が求められていることを説明する。</p>
<p>4. ODAに国際機関が関わる意義についての考察</p> <p>(1) 開発援助の受領が多い国・地域の確認 (5分) 問：ODA受領額ランキングの1位はどこ国？</p> <p>(2) 開発援助の受領の多さに関する考察 (20分) 問：開発援助を多く受ける国が、時期によって変わるのはなぜだろう？ (個→グループで共有→発表)</p> <p>(3) 開発援助のバランスをとる国際機関の確認 (5分)</p> <p>(4) 国際機関が開発援助に関わる意義の考察 問：開発途上国への援助に、国際機関が関わる意義は何だろう？ (15分)</p> <p>(5) ふり返り (5分) ・本時の学習の気づきや疑問点を、スプレッドシートに入力する。</p>	<p>パワーポイント④ (P124) 参照 2022年、2012年、1982年のODA受領額のランキングを示し、1位の国を当てながら、時期によって受領国の上位が異なることを確認する。</p> <p>戦争や紛争以外にも、自然災害や貧困の状況といった多様な要因があることを理解させる。また、日本や韓国のようなODAを卒業した国についても紹介し、卒業の基準を確認する。</p> <p>動画②を視聴し、OECDの役割について理解させる。他にも世界銀行やIMFなどの国際機関が関係していることを補足説明する。</p> <p>二国間援助と多国間援助の違いを確認し、問いを投げかける。援助国の政治的・経済的な利益が優先されていないかを客観的に評価する必要性について、補足説明する。</p>

<p>5. ODAと地球規模の課題の関係についての考察</p> <p>(1) 地球規模の課題についての確認 (5分)</p> <p>問：一つの国では解決できないグローバルな課題には、どのようなものがあるだろう？</p> <p>問：「日本：7.9」、「ラオス：0.3」これは一体何を表した数字？ ※国民一人当たりのCO<sub>2</sub>排出量 (2021年)</p> <p>(2) 温暖化対策についての討論活動 (20分)</p> <p>問：開発途上国にもCO<sub>2</sub>の削減を求めるべきか？</p> <div data-bbox="159 689 775 891" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※討論活動時における問い返しの例</p> <p>①開発援助を増やすことで、CO<sub>2</sub>の排出量は増えるのだろうか。</p> <p>②先進国はなぜ削減目標を達成できないのか。</p> </div> <p>(3) 持続可能な開発援助の在り方の検討 (20分)</p> <p>問：開発途上国の経済発展と地球規模の課題解決の両立のために必要なことは何だろう？ (個→グループで話し合い→発表)</p> <div data-bbox="159 1137 775 1379" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※生徒の意見に対する問い返しの例</p> <p>①日本ができることは何か。</p> <p>②活気ある東南アジア諸国から、日本が学ぶことはないか。</p> <p>③資源が少ない国のエネルギーの在り方は？</p> </div> <p>(4) ふり返し (5分)</p> <p>・本時の学習の気づきや疑問点を、スプレッドシートに入力する。</p>	<p>パワーポイント⑤ (P125) 参照</p> <p>貧困や難民問題、地域紛争、地球温暖化などの事例があることを確認する。</p> <p>アメリカや中国などのCO<sub>2</sub>排出量や、世界平均気温の変化予測を資料で提示し、パリ協定の概要を確認した上で次の問いに移る。</p> <p>立場を明確にするために、「求める」か「求めない」かを黒板に示し、自分の考えに近い所にネームプレートを張らせる。</p> <p>左のような問い返しをしながら、開発援助の長期的な効果や、先進国の温暖化対策の課題について理解させる。また、京都議定書といったパリ協定に至るまでの経緯についても概要を確認する。</p> <p>左下の②の問い返しをすることで、「豊かさ」や開発途上国の求める「開発」とは何かについて考えさせる。</p> <p>長期的・戦略的な技術支援やインフラの整備、自国だけでなく広汎かつ未来志向の環境政策が求められていることを補足説明する。</p>
<p>6. 単元全体のまとめ</p> <p>(1) 単元全体のレポート課題・チェックテスト</p> <div data-bbox="159 1715 775 1908" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【レポート課題】</p> <p>日本がODAを行う意義 (価値・重要性) について、政府の解釈を踏まえた上で、あなたの考えを自由に論じなさい。</p> </div>	<p>単元前半からの学習を振り返った上で、レポート課題とチェックテスト (Google Form) を行う。ラオスへ行って感じたことや、ODAについて様々な考え方がることなど、教師 (大人) の立場での思いを語り、単元を終える。</p>

# ラオスODAプロジェクトマップ① ラオス全体

※JICAホームページ > 海外での取り組み > ラオス よりダウンロードできます。





パワーポイント② (第6時)

### 政府開発援助 (ODA)

ODA (政府開発援助)  
政府が開発途上国や地域の開発のために、資金や技術の提供などの支援をすること。

### 日本のODA (政府開発援助) について考えよう

### 単元後半の課題

1. 少子高齢化や過疎化で国力の低下している日本がODAを行う意義は何か？

日本のラオスへのODA (1980年代初め～)

2020年までに約1000億円以上の援助

### 日本のODA予算額の推移 (出所)外務省

#### ODA予算額の推移

89年度 実績額世界1位 57億円

1997年度 1兆1687億円

2001年度 実績額が2位に転落

### 日本の歳出 (2023年度)

国債費	22.1%
社会保険	22.3%
一般計	114.4兆円
特別会計	12.2%
地方交付金	11.2%
地方債	10.8%
国債発行	17.4%
国債償還	14.4%
国債売却	1.8%
国債償還	1.2%
国債売却	0.9%
国債償還	0.8%
国債売却	0.8%

### 日本の歳出の変化

1990年度 66.2兆円

2023年度 114.4兆円

### 国の借金総額の推移

1,105兆円 / 990万人 / 1兆2,409万円

国の借金総額 約1,105兆円

Q.人口減少などの課題がある日本がODAをやる意義はあるのか？

### 日本の開発協力の意義

国際社会は歴史的に発展、進歩的発展 (2) に貢献。  
① 発展途上国や途上国の社会経済発展の促進、② 途上国や途上国の社会経済発展への促進、③ 途上国や途上国の社会経済発展への促進、④ 途上国や途上国の社会経済発展への促進

① 途上国や途上国の社会経済発展の促進、② 途上国や途上国の社会経済発展への促進、③ 途上国や途上国の社会経済発展への促進、④ 途上国や途上国の社会経済発展への促進

① 途上国や途上国の社会経済発展の促進、② 途上国や途上国の社会経済発展への促進、③ 途上国や途上国の社会経済発展への促進、④ 途上国や途上国の社会経済発展への促進

① 途上国や途上国の社会経済発展の促進、② 途上国や途上国の社会経済発展への促進、③ 途上国や途上国の社会経済発展への促進、④ 途上国や途上国の社会経済発展への促進

### 日本の支援で建設されたインドの地下鉄デリーメトロ (2005.4.29)

総事業費1兆7千億円。その約半分を日本が有償資金協力して建設。

### 2026年開業予定のインドの新幹線

### ラオスのGDPと成長率の推移

#### GDP(米ドル名目)とその成長率の推移

### 一人当たりGDPの推移(韓国との比較)

### ラオスのGDPと成長率の推移

1970年 150位

2021年 118位

人口の約2割が1日1.9ドル(約300円)未満で生活

Q.ラオスへのODAはいつまで続けるべきか？

パワーポイント③ (第7時)

日本のODAの経緯について考えよう

- 10月6日は何の日？
- ①石油（オイル）の日
  - ②みんなで重力の謎を考える日
  - ③トム・クルーズの日
  - ④国際協力の日
- なぜ国際協力の日？

1954年10月6日  
日本政府がコロンボ・プランに加盟

◆コロンボ・プランとは  
...1950年に提案されたアジア太平洋地域の国々の経済社会の発展を支援する協力機構。スリランカのコロンボで開催されたイギリス連邦外相会議で設立。

翌55年から日本のODA開始




Q. 戦後10年で、日本がODA（外国への援助）を始めたのはなぜだろう？

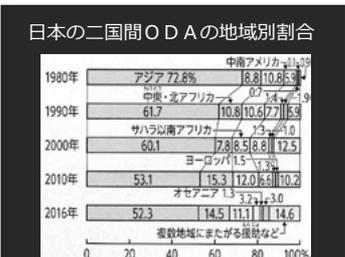


日本の戦後賠償・準賠償の一覧

国名	賠償形態	賠償額	賠償開始日	賠償終了日
ドイツ	賠償金	520,000,000	1953.7.1	1954.12.31
フランス	賠償金	200,000,000	1953.7.1	1954.12.31
インドネシア	賠償金	100,000,000	1953.7.1	1954.12.31
オランダ	賠償金	100,000,000	1953.7.1	1954.12.31
中国	賠償金	100,000,000	1953.7.1	1954.12.31

①賠償を受ける国は、資金や技術協力を日本から取得  
②賠償にあたる資金や技術協力は、日本の企業・個人が納入  
③日本政府が関する代金を日本の企業・個人に支払う

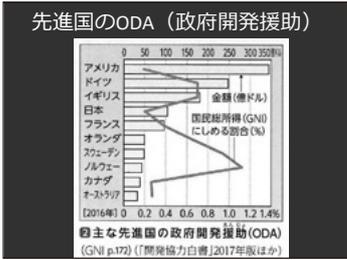
日本の輸出促進・貿易拡大 → 大きな経済成長



Q. 中東やアフリカ地域へのODAの割合が増えてきたのはなぜだろう？



パワーポイント④ (第8時)



### 2022年のODAの受領額

1位	ウクライナ	297億ドル
2位	シリア	83億ドル
3位	エジプト	58億ドル
4位	バングラデシュ	52億ドル
5位	エチオピア	49億ドル

### 2012年のODAの受領額

1位	アフガニスタン	57億ドル
2位	パキスタン	38億ドル
3位	エチオピア	33億ドル
4位	ケニア	26億ドル
5位	イラク	24億ドル

### 1982年のODAの受領額

1位	インド	22億ドル
2位	エジプト	20億ドル
3位	インドネシア	18億ドル
4位	パキスタン	15億ドル
5位	フィリピン	14億ドル

Q. 開発援助を多く受ける国が時期によって変わるのなぜだろう？

- ### ODA受領を卒業した国の例
1. 韓国  
...1980年代までODAを受領。  
1990年代に経済的自立。
  2. シンガポール  
...経済発展と工業化で1980年代に卒業。
  3. ブラジル  
...2000年代に対象国から外れる。  
現在はG20の一員。

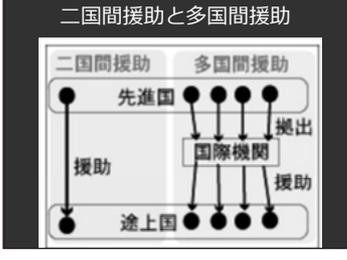
- ### ODA卒業の基準
1. GNI (国民総所得)  
...OECDの基準は1045ドル以上。
  2. 経済成長の安定  
...外部の支援に依存しない。
  3. インフラ整備と社会基盤の充実  
...教育、保健、交通インフラなどが十分に整備されている



### OECD加盟国一覧

アメリカ	オーストラリア	ニュージーランド
カナダ	ベルギー	デンマーク
フランス	ドイツ	フィンランド
イタリア	ギリシャ	フランス
日本	韓国	オランダ
韓国	ポルトガル	スウェーデン
メキシコ	スペイン	スイス
トルコ	タイ	英国
米国	米国	米国

ここに書かれている国は先進国として判別できる。  
 ※中国のように加盟していないけど、経済大国な国もある。

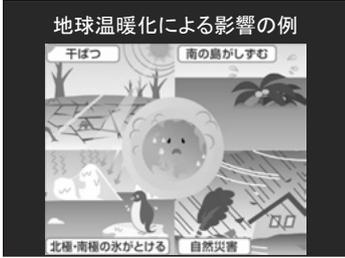
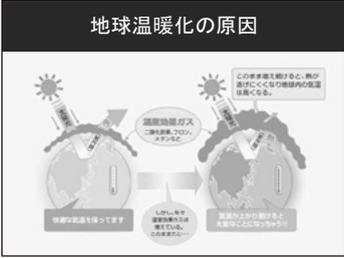
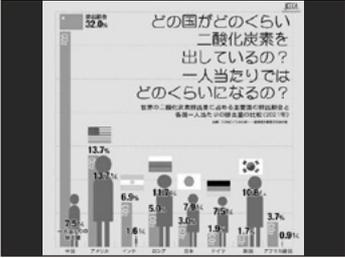


パワーポイント⑤ (第9時)



地球規模の課題とODAの関係について考えよう

何の数字？  
**日本 : 7.9t**  
**ラオス: 0.3t**  
 一人あたりのCO2排出量 (2021年)



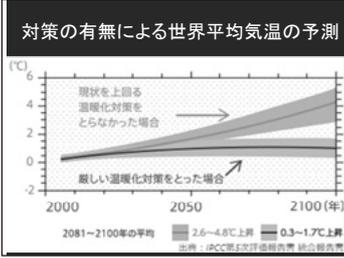
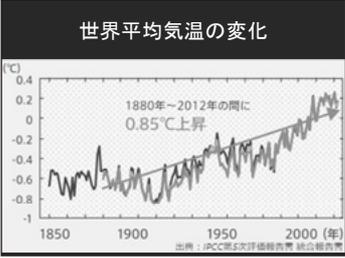
パリ協定の特徴

パリ協定とは？  
 気候変動問題に関する国際的な枠組み (2015年に採択、2016年に発効)

パリ協定の特徴

- 世界共通の長期目標が掲げられている
- 気候変動に関する国際的な枠組み (2015年に採択、2016年に発効)
- 2050年までに世界の平均気温の上昇を2℃未満に抑えること
- 2050年までに世界の平均気温の上昇を1.5℃未満に抑えること
- 2050年までに世界の平均気温の上昇を1.5℃未満に抑えること

Q. ラオスのような開発途上国にもCO2削減を求めるべきか？



1992年 国連環境開発会議(地球サミット)

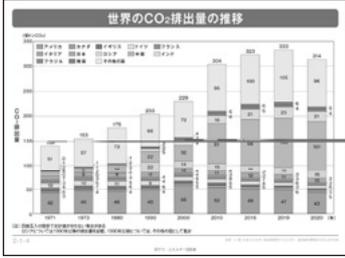
「持続可能な開発」

- 気候変動枠組条約
- 生物多様性条約



京都議定書における先進国のCO2削減目標(1990年比)

目標	国
10%	アイスランド
8%	オーストラリア
1%	ノルウェー
	ニュージーランド
0%	ロシア
-6%	日本 カナダ
-7%	アメリカ
-8%	欧州諸国連合 (EU)



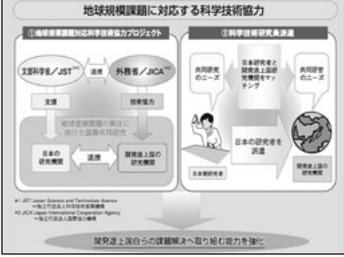
パリ協定による各国の目標

主な温室効果ガス排出国の目標

- 2030年までにGDPあたりの排出量を60%~65%削減(2005年比)

中国

Q. 途上国の経済発展と地球規模の課題解決を両立していくために必要なことは？



## おわりに

アクティビティ1では、主にラオスの疑問について自由に内容を選択し、個人で探究する学習。アクティビティ2では、アクティビティ1で学んだ情報をもとに、日本のODAの在り方について協働的に考察していく学習を行った。

個人でレポート課題を作成する授業を社会科で行うのは初めてだったが、生徒が黙々と調べ、Googleドキュメントを駆使しながらレポート作成に取り組む姿勢に、学びの個別最適化の可能性を大いに感じることができた。また、生徒の外国の実態に対する知的好奇心の高さを目の当たりにすることができ、改めて異文化理解や開発教育の重要性とこれからの可能性を実感した。

社会科の授業をはじめ、学校教育においてカリキュラム・マネジメントに開発教育をどのように効果的に取り入れていくか。グローバルな問題に対する意識や、持続可能な社会をつくっていく精神をより高めていくための教育が、学校教育には必要である。これからの課題として、さらに授業実践や学校運営を行っていきたい。

最後に、本実践に向けて、お世話になったJICA関係職員をはじめ、ご指導頂いた大学の先生方、一生懸命授業に臨んでくれた生徒たちに深謝を表す。

### 参考文献・引用資料

- ・『ラオスODAプロジェクトマップ（2022年10月改訂版）』、JICAラオス事務所、2022年
- ・『ラオス概況』、国際協力機構（JICA）ラオス事務所、2022年
- ・『政府開発援助（ODA）Q&A集』、外務省国際協力局、2024年、  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/ODA/files/100205666.pdf>
- ・『日本の開発協力の意義』、外務省、2023年、  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/ODA/files/100514802.pdf>
- ・『日本の援助の源流に関する歴史比較制度分析』、下村恭民、2014年
- ・『水道局国際協力事業かわら版 YOUは何しにラオスへ？ 2024 Vol.01』、さいたま市水道局経営企画課、2024年
- ・『ODA紹介動画（ショートver.）』、外務省、2021年、  
<https://www.youtube.com/watch?v=60rZlXCGWY>
- ・『OECD：より良い暮らしのためのより良い政策を共につくる』、OECD、2021年  
<https://www.youtube.com/watch?v=a4HMnU7w7jg>
- ・『国際協力70周年 他国のインフラ整備支援が日本にもたらす影響』、JICA国際協力機構、2024年、  
<https://www.youtube.com/watch?v=0IYDyeChfSk>
- ・『もっと豊かな日本のために 世界をもっと豊かに』、首相官邸、  
<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/ODA/index.html>

# 実践事例報告

プログラム作成・実践者

末村 和也

学校名

山口市立大内中学校

担当教科

社会科

実践教科

社会科（公民的分野）

## 【授業の概要】

### (1) 単元のテーマ

ラオスから持続可能な地球社会について考える

### (2) 単元のねらい

ラオスに関する疑問点について探究する活動を通して、日本がODAを行う意義について、多様な視点から考え、自分の意見をもつことができる。

### (3) 概 要

- ・ラオスに行って実際に感じた6つの疑問の中から3つを選び、インターネットなどの情報を基に調べてレポートを作成し、発表する。調べて分からなかったことを、JICAラオス事務所の方にインタビューする。
- ・ODAを通じた日本とラオスの関係について疑問をもち、日本がODAを行う意義やその在り方について、ODAの経緯や国際機関が関わる重要性と関連づけて、自分の解釈をもつ。

### (4) 指導上の留意点

- ・「貧困」や「開発途上国」など、抽象的な側面や対象が広義なことばを使うときには、具体的な国名や地域を使い、できる限り生活状況のデータや写真と合わせて理解させる。
- ・開発援助を先進国が「してあげている」という上からの立場ではなく、あくまでも国と国（地域）の対等な関係性の中で行われているものという立場で指導を行う。

### (5) 児童生徒の感想や学び・気づき

単元全体の終わりに行ったレポート課題には、下のような生徒の記述が見られた。

【課題】日本がODAを行う意義（価値・重要性）について、政府の解釈を踏まえた上で、あなたの考えを自由に論じなさい。

I 他国との関係を良くし、つながりを強め、争いをしないようにする。また、貿易などを行っている国に援助をして、資源を優先的にもらう。日本が国際協力することによって世界中の国から戦争や紛争がなくなり平和な社会をつくりあげる。そして、争いがなくなることにより日本の安全が確保でき、経済成長にもつなげることができる。

II 日本はアジアへのODAが多いが、いろんな国へ支援することによって各国から日本が必要な資源を輸入できるかもしれないし、その国と新しい産業を作れるかもしれない。また、政府の思っているように環境問題は日本だけでなく、世界で解決することが必須であると思う。

Ⅲ 他国の生活の苦しい人々を助けることはとても素晴らしいことだが、現在の日本は決して豊かと言える状況ではないと考える。だから私は、支援額の一部を日本の政治へと回し、政治が安定するまで少し支援額を減らしたほうがいいと考える。

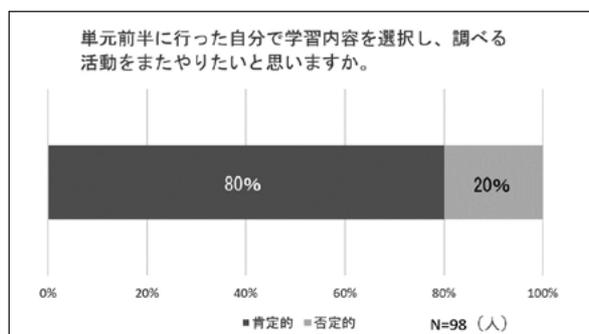
Ⅳ ODAの意義は、国際平和はもちろん、世界中の人たちみんなが安心して幸せに暮らせるような世界をつくっていくことだと考える。また、そんな気持ちがODAを通して多くの人に伝わっていき、NGOなどのような活動により多くの人に参加し、さらに多くの国や人々を救う意義もあると思う。それと、地球温暖化のような地球規模の課題解決を目指す意義もあるように、「してあげている」という一方的な考えですのではなく、お互いの役に立っているという考え方で取り組むべきだと考える。

ODAに対して、肯定的・否定的双方の見方がレポート課題の中に見られたが、日本国内や開発途上国の状況、日本にとっての利益や地球規模の課題といった多様な視点から多くの生徒が課題に対する自分の考えを述べていた。ODAだけでなく、社会にある様々な課題に対して表面的・一面的ではなく、多面的・多角的に考え、判断できる生徒を育てていきたい。

#### (6) 授業実践をした上での感想・ふり返し

単元を終えた後に行ったアンケートで、「単元前半のラオスに関する課題について、興味をもつことができましたか。」という質問に、94%の肯定的な回答が見られた。しかし、「自分で調べる活動をまたやりたいと思いますか。」という質問には、肯定的な回答は80%にとどまった(右図)。肯定的な回答の理由には、「教科書では知れない事を知る事ができる」、「自分の興味のあることを調べる中で、新たな疑問が生まれて勉強になる」といった回答が見られた。一方、否定的な理由には「インターネットの情報が多すぎて、どれが本当のものか見分けづらい」、「まとめるのがあまり得意ではない」といったものが多く見られた。

自分で学習内容を選択し、探究していく学習を充実させるためにはどのような支援が必要なのか、今後の課題として考える必要がある。



単元終了後に行ったアンケート



第5時 JICAラオス事務所の職員の方へのインタビュー



ODAプロジェクトマップから疑問点を考える